

造林作業の現地調査システム

概要

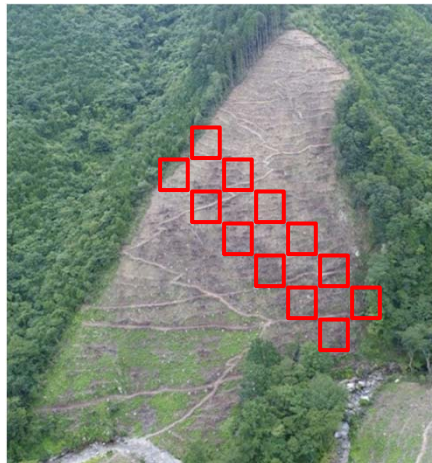
- 民間業者が県などから植林業務を請け負った際、作業完了後、県の職員が委託内容通りの作業となっているか現地調査を実施している。
- 現地調査では、木の本数を数えており、傾斜地のため危険箇所も多い他、50haの面積に対し、10日間を現地調査に要する場合もあり。県職員の負担になっている。
- これらの課題を解決するため、木の本数を自動で数えることのできる「植林現地調査システム」を開発。ドローンの画像を解析することで、木の場所を地図上で特定し、本数を自動計上させる。また、植林以外にも地拵え、下刈り、除伐、間伐など一連の造林作業について現地調査の省力化に資するものか実証していく。
- ネット環境があればどこからでもアクセス可能。またスマートフォンでもアクセスできるので民間業者と県の職員の間で円滑にコミュニケーションができる他、蓄積したデータをいつでも確認できます。
- 今年の12月に実証実験を実施し、次年度のサービス化を目指している。

導入効果

- 本システムの導入により、従来50haに対して10日間かかっていた現地調査を2-3日に短縮できる予定。
- また撮影はドローンで代行することから山間地での人的事故防止も期待できる。



植林前(イメージ写真)



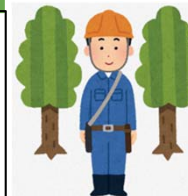
植林後(イメージ写真)

*赤い枠は植栽された箇所を自動抽出しています。

引用元：四国森林管理局(<http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/press/soumu/attach/pdf/190703-2.pdf>)

従来

目視確認
10日間(50ha)



県の職員

現地調査システム

自動抽出
2-3日間(50ha)



ドローン

SkymatiX

Remote Sensing as a Service

○対象品目

水稲	畑作	露地野菜	施設園芸	果樹	茶	花き
酪農	肉用牛	養豚	養鶏	飼料作物		
沿岸漁業	養殖業	沖・遠洋漁業	その他水産業	林業		その他

○該当するニーズ

項目	林業（3）造林・保育
技術ニーズ	施業地管理
具体的なニーズの内容	ドローンで撮影した画像を利用して造林作業の検査を行うシステム

○開発等の段階

開発/実証中	○
モニター販売中	
一般販売中	
その他	

☎ 連絡先

(株)スカイマティクス
TEL:03-6262-6360

<https://skymatix.co.jp/>
info@skymatix.co.jp

お問い合わせフォーム



情報記載日：2019年11月28日